

出演する振付家・ダンサーへの質問（木村覚より）

回答者：大橋可也

（1）自分の方法論を言葉にしてもらえますか。

振付の方法論ということであれば、振付をおこなう、すなわちダンサーと関係性を持つ、ということだと考えているので、まずは目の前のダンサーに関心を持つ、ということから出発することです。

（2）作品を作る際にもっとも心がけていることは何ですか。

その作品が自分にとって、ダンサーにとって、世の中の人々（どのような人々かは作品によって仮定するしかない）にとって、リアルなものであるかということ。

（3）意識している同時代の作家はいますか（ダンス／その他のジャンル）、その理由を教えてください。

今の日本でダンス作品を作っている全ての人を意識したいと思っています。ただし、現実的には全てというわけにはいかないもので、具体的に言うなら自分が親近感を持てる作家、男性であり舞踏の影響下にある、鈴木ユキオには関心があります。

（4）意識している過去の作家はいますか（ダンス／その他のジャンル）、その理由を教えてください。

アンドレイ・タルコフスキー
「サクリファイス」のラストシーンは自分が作りたい作品のイメージに近いので。

（5）いまのコンテンポラリー・ダンスをめぐる環境についてどう考えていますか。問題点、課題は何ですか。

コンテンポラリー性というものに対しての意識がやる側も見る側も希薄であるように思います。

（6）ダンスの批評の現状についてどう考えていますか。問題点、課題は何ですか。

ダンスの批評というものが何であるのか、何を目的としているか、ということについて僕を含めほとんどの人は理解していないと思います。
少なくとも今の日本においては、ダンスの批評は発表される機会が圧倒的に少ないことも問題ですが、内容的にも批評家（と呼ばれる人）の好き嫌いを理屈づけただけのものに過ぎず、作家にも観客にも、建設的な影響を与えているとは言えません。
批評家はその責務を自覚すると同時に、各々の立場を明確にした上で、発言をすべきでしょう。

（7）今後の作品作りで、心がけようと考えていることはありますか。あれば、それはどんなことですか。

（1）と重なることですが、ダンサーたちに、周りの人々、出来事に関心を持つ、ということ。